

ニュースレター

2024年9月

会員の皆様へ

一般社団法人 日本看護研究学会 九州・沖縄地方会会長 **荒尾博美**

酷暑が続いた夏、また、パリでオリンピック・パラリンピックが開催された今年の夏、九州・沖縄地方会会員の皆様は、どのようにお過ごしになりましたでしょうか。

長く続いた COVID-19 の影響が収まりかけていたと思っていたところ、今年も感染者数が増加し始めました。医療・福祉の現場の皆様におかれましては、感染対策の強化に取り組んでおられることと存じます。また、看護教育の現場におきまして、多少なりの影響があり、特に臨地実習の場では、調整や工夫を重ねて教育の質を維持する努力をされていることとお察しいたします。

長家智子前会長から業務を引き継ぎ、新事務局として初めて皆様に発信するニュースレターとなりました。このニュースレターが、九州・沖縄地方会の活動を会員の皆様にご報告させていただく場として、有意義な媒体となりますよう事務局のメンバーとともに頑張っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

まずは、第28回九州・沖縄地方会学術集会についてご報告いたします。令和5年11月に「時空を超え、学際的な看護の研究に挑む—災害看護・高度実践看護師・離島へき地の連携 伝承・技・結—」をメインテーマとし、鹿児島大学で対面・WEB開催されました。一昨年の九州・沖縄地方会総会で松成裕子学術集会長が本学術集会について紹介された際、メインテーマの「時空を超え」という言葉からどのようなプログラムが準備されるのだろうか楽しみでした。

私が第27回学術集会長を務めたことから、第28回への引継ぎを行うプロセスで、松成裕子学術集会長の学会準備のご苦勞と熱意を直に感じておりましたので、第28回学術集会が盛会のうちに終了し、とても嬉しく思います。松成裕子学術集会長からのご報告を掲載しておりますので、学術集会の詳細はそちらでご確認ください。また、学術集会に参加された会員からのメッセージも掲載しております。まだ地方会の学術集会に参加されたことがない会員の皆様には地方会ならではの学術集会の雰囲気を感じていただき、今後の学術集会への参加を検討していただければと思います。

続いて、第29回九州・沖縄地方会学術集会についてお知らせいたします。第29回九州・沖縄地方会学術集会は、「多職種連携により対象者・家族のQOL向上を目指す」をメインテーマに、令和7年3月9日（日）に宮崎市で現地開催の予定です。今年度の学術集会は、宮崎大学の木下由美子先生に学術集会長をご担当いただき、準備を進めていただいております。ぜひとも多くの会員の皆様にご参加いただけますよう、お願い申し上げます。第29回学術集会の詳細につきましては、「第29回九州・沖縄地方会学術集会ご案内」をご覧ください。早春の宮崎で皆様とお会いできることを楽しみにしております。

最後になりましたが、会員の皆様の益々のご発展とご健康をお祈りいたします。今年度も日本看護研究学会九州・沖縄地方会の活動にお力添えをよろしくお願い申し上げます。

*** 事務局より ***

- ◆今年度より、事務局が変更になりました。ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、何卒宜しくお願い致します。
- ◆ニュースレターは紙媒体を廃止しています。ホームページにアクセスし、いつでもニュースレターをご覧ください。

会員からのメッセージ

「日本看護研究学会 第28回九州・沖縄地方会学術集会に参加して」

星槎大学大学院教育学研究科修士課程

九州沖縄高度実践看護師活動促進協議会 松枝 美智子

第28回学術集会長 松成裕子先生はじめ会員の皆様への感謝

昨年の学術集会の特別講演では、「九州・沖縄高度実践看護師活動促進協議会の2年間の歩みと今後の課題」というテーマで話をさせていただきました。九州・沖縄地域ではまだAPNの養成課程も修了生も少ない状況です。にも拘らず大学院の修了生が臨床現場でうまく活用されない状況を何とか打開したいと、2021年3月28日に当協議会を設立しました。講演の資料をまとめながら私が感じたことは設立以来とにかく走り続けたということ、そして走り続けることができたのは、当協議会の理事会のメンバーの支えと代議員・会員の皆様のご協力があったことでした。令和4-5年度には理事会・連携団体・事業担当者のご理解と多大なご協力の下に、(独)福祉医療機構のWAM助成事業「COVID-19大規模災害で疲弊した看護職者への総合的支援事業」を展開することができました。また福祉医療機構の特別なお計らいにより能登半島地震で被災した看護学生・看護職者に支援できたこと、広報には多くの看護系学会等にご協力いただいたことは本当にありがたく、この場を借りて心より感謝申し上げます。

WAM助成事業はお陰様で2024年3月31日に無事終了しました。今後は担当者のボランティアな活動として細々とではあっても社会のニーズに合わせて形を変えながら継続する予定です。

他にも当協議会では松成裕子先生のリーダーシップの下に研究担当代議員会が科研費を獲得してAPNの研究支援システムの構築に取り組んでいます。また各種の代議員会が事例検討会、APN活動・活用フォーラム等のユニークな活動を行っています。APNが社会課題の解決に向けて専心することで看護界だけでなく広く国民の理解に繋がり、ひいては国民に利益をもたらせることを願っています。本学会の会員の皆様には当協議会の行方に関心を持ち、ご指導・ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

畏敬会 井野辺病院 老年診療看護師 安部 涼子

2023年11月18日に鹿児島で開催された日本看護研究学会第28回九州・沖縄地方会学術集会に参加させていただきました。

私は、大分県で老年診療看護師として勤務しており、看護実践の中で病院や在宅で高齢者のフットケアにかかわる場面が多くあります。これまで、実践報告の発表は多く経験していました。しかし、以前より文献レビューに挑戦したいと考えておりましたので、爪白癬の治療薬である「爪外用液の文献検討」を発表させていただきました。

看護研究学会での初めての発表ということもあり、緊張感の中でポスター発表に臨みました。しかし、会場は明るく温かい雰囲気に包まれていました。発表後は、爪白癬に対する質疑応答だけでなく、自助具や服薬管理での問題点など教育現場や実践現場の先生方と様々な意見交換を行うことができました。

看護の専門家との対話を通して、自身の研究テーマであるフットケアに対する理解を深めることができました。さらに、講演やシンポジウムに参加したことで、看護の視野と知識を広げる貴重な機会となりました。

また、鹿児島への旅は、九州新幹線を利用し快適にアクセスすることが出来ました。黒豚やキビナゴなど鹿児島特有の美味しい食文化に触れ、思い出に残るものとなりました。

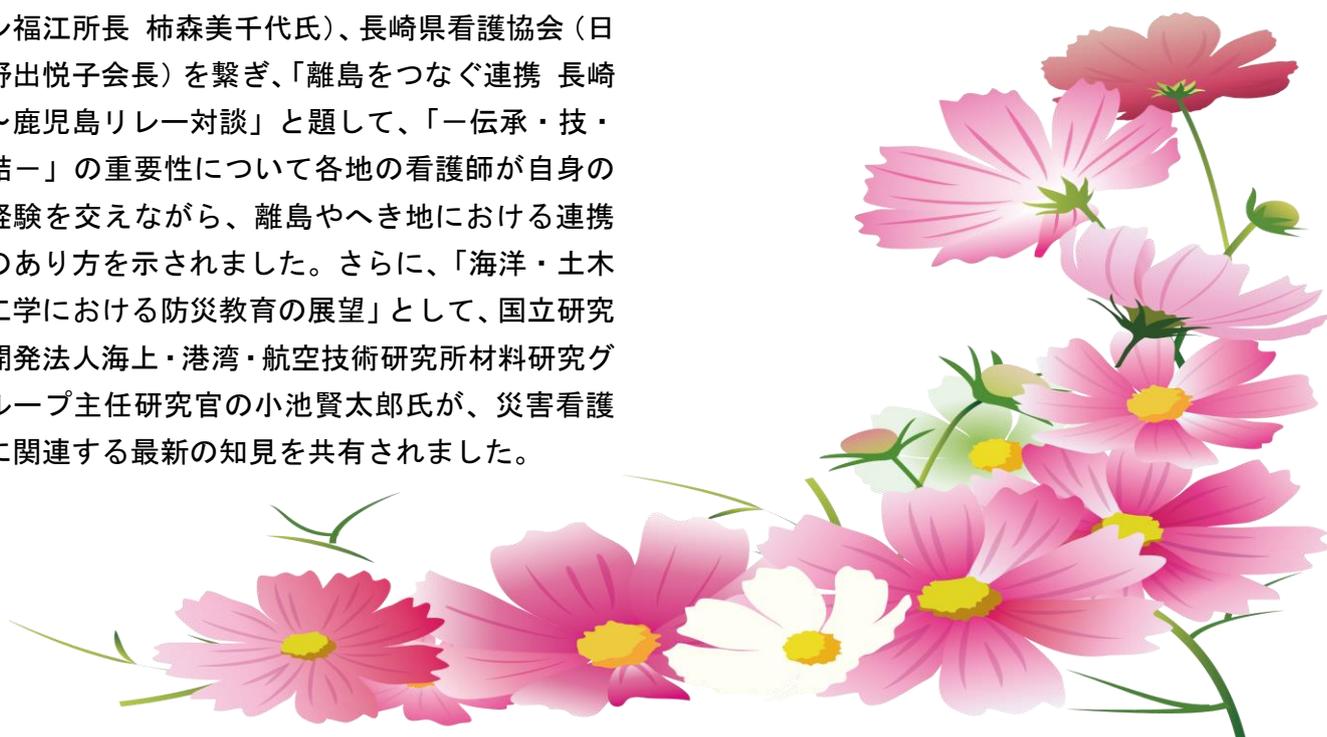
この度、学術集会長松成裕子先生や元大分県立看護科学大学伊東朋子先生にご指導をいただき、看護研究学会九州・沖縄地方会に参加できたことは、私にとって非常に有意義な経験でした。今後も、看護研究学会に積極的に参加し、自分の知識や専門性を高めていきたいと思っております。このような貴重な機会を与えていただきましたことに、心より感謝申し上げます。

一般社団法人 日本看護研究学会 第 28 回九州・沖縄地方会学術集会を終えて

学術集会長 松成 裕子（鹿児島大学）

日本看護研究学会 第 28 回九州・沖縄地方会学術集会は、メインテーマを「時空を超え、学際的な看護の研究に挑む ー災害看護・高度実践看護師・離島へき地の連携ー伝承・技・結ー」とし、令和 5 年 11 月 18 日（土）に鹿児島大学郡元キャンパスを会場として開催しました。テーマの「時空を超え」という言葉の通り、ハイブリッド形式での開催となりました。講演では、「九州・沖縄高度実践看護師活動促進協議会の 2 年間の歩みと今後の課題」と題し、九州・沖縄高度実践看護師活動促進協議会代表の松枝美智子氏が発表されました。また、「看護職の専門性と新たな看護提供サービスを目指して ～地域における看護の拠点づくりと開業したメッセンジャーナースへの支援を中心に～」と題して、NPO 法人設立メッセンジャーナース鹿児島理事長の田畑千穂子氏による講演が行われました。シンポジウムでは、鹿児島県の十島村（戸崎緑看護師長）、長崎県の対馬（長崎県病院企業団対馬病院副看護部長 福島利恵氏）、五島（訪問看護ステーション福江所長 柿森美千代氏）、長崎県看護協会（日野出悦子会長）を繋ぎ、「離島をつなぐ連携 長崎～鹿児島リレー対談」と題して、「ー伝承・技・結ー」の重要性について各地の看護師が自身の経験を交えながら、離島やへき地における連携のあり方を示されました。さらに、「海洋・土木工学における防災教育の展望」として、国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所材料研究グループ主任研究官の小池賢太郎氏が、災害看護に関連する最新の知見を共有されました。

また、一般演題発表では 4 題、ポスター発表では 7 題が行われ、新たな知見が加わりました。そして、名誉会員の田島桂子先生にも WEB で最後までご参加いただき、「地方会が毎年多面的な示唆に富む学術集会となっており、今後の発展を期待しております。」とのお言葉を頂戴しました。最後になりますが、田島先生、東サトエ先生（平成 25・26 年度地方会会長）からのご寄付についてもご報告いたします。そして、ご支援・ご協力いただいた団体および関係者の皆さま、日本看護研究学会九州・沖縄地方会会長の長家智子先生ならびに事務局の皆さま、そして企画・運営にご尽力いただいた皆さま、学会開催を支えてくださったすべての方々に、心より感謝申し上げます。



一般社団法人 日本看護研究学会 第29回九州・沖縄地方会学術集会ご案内

テーマ『多職種連携により対象者・家族のQOL向上を目指す』

日本看護研究学会 第29回九州・沖縄地方会
学術集会長 木下 由美子

このたび、日本看護研究学会第29回九州・沖縄地方会学術集会を2025年3月9日（日）に、宮崎で現地開催する運びとなりましたので、ご案内申し上げます。

本会のテーマは『多職種連携により対象者・家族のQOL向上を目指す』としました。

特別講演には、立命館大学の鈴鴨よしみ先生をお迎えし、「QOL 評価の理論と実際」というテーマでご講演いただきます。先生は、代表的なQuality of Life (QOL) 尺度であるSF-36において、日本人の概念構造に沿った3コンポーネント・スコアリングを開発されたご経験をお持ちです。

また、ホームホスピス宮崎理事長の市原美穂先生にもご登壇いただき「多職種連携で支えるホームホスピス」というテーマで、宮崎が誇るホームホスピスにおける多職種連携の実践例についてお話しいただきます。

さらに、シンポジウムでは「対象者・家族のQOL向上を目指す多職種連携とは」をテーマに、各専門職種の皆さんが感じる課題を共有しながら議論を深めていきたいと考えております。

多くの皆様のご参加を心からお待ちしております。穏やかな3月の宮崎で、貴重なご縁が結ばれることを願っております。

◆日時：2025年3月9日（日）9:00~16:15 予定

◆会場：宮崎大学医学部 講義実習棟 206（現地開催）

◆演題募集期間：2024年9月15日（日）~2024年12月15日（日）

◆参加登録期間：2024年9月15日（日）~2025年2月14日（金）

◆学術集会参加費

	会員	非会員	学生
事前参加申込み	4,000円	4,500円	大学院生 1,500円（抄録代含）
当日参加申込み	4,500円	5,000円	学部生無料（抄録代別）

◆事務局：宮崎大学医学部看護学科統合臨床看護科学講座内

〒889-1692 宮崎県宮崎市清武町木原 5200

TEL&FAX 0985-85-9826

E-mail: jsnr-kyu29@cc.miyazaki-u.ac.jp

HP: <https://sites.google.com/view/miyazaki-med-jsnr-kyu29/>

